（様式４）

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和２年３月２７日

グループ名	栗原北小学校　研究推進委員会	フリガナ 代表者氏名	ヨシダ　マスミ 吉田　益巳
学校名 （代表者）	足立区立栗原北小学校 （吉田　益巳）	電話番号	０３－３８５３－１２１６
研究テーマ	「豊かな人間力の育成をめざして」 副題～主体的、対話的な活動を通して（国語科）～		
研究期間	平成３１年４月１０日から令和２年３月　まで		
研究結果 の概要 ＊詳細は別紙により報告	【成果】 ＊１年間の本校の研究を通して 〇各学年の実態に応じた学習計画を作成することができた。 〇授業を通して学年の実態を把握でき、研究主題に向けて学校全体で取り組むことができた。 〇学習計画を工夫することで、主体的な学び合いができた。 〇新学習指導要領の施行に向け、国語学習の在り方の共通理解を図ることができた。 〇ペアやトリオなど、話し合いの工夫ができた。 【課題】 ●領域（話す・聞くこと、書くこと、読むこと）や読みの教材（説明文や物語文）が違うことで、指導法や手立ての系統性の構築が難しいことで指導に生かしにくい。 ●話し合いのより一層の深め方（観点、目的、方法）や、表現力を高める手立ての工夫など効果的な手段や学校としてどう統一していけばいいのかが分からない。		
その他 特記事項	＊研究経過 ４月　１０日（水）～４月１６日（火） 研究全体会　研究主題、めざす児童像について ６月　２８日（金）　第１回研究授業　第３学年「自然のかくし絵」 授業者　鯉渕　絵理 講師　井出　一雄先生（都小国研　顧問） ７月　１７日（水）　第２回研究授業　第２学年「ふろしきは、どんなぬの」 授業者　杉浦　しずく 講師　井出　一雄先生（都小国研　顧問） ９月　２６日（木）　第３回研究授業　第１学年「はなしたいな　ききたいな」 授業者　富岡　真由 講師　井出　一雄先生（都小国研　顧問） １１月　１日（金）　第４回研究授業　第４学年「ごんぎつね」 授業者　安藤　潤一 講師　井出　一雄先生（都小国研　顧問） １１月　２７日（水）　第５回研究授業　第６学年「海のいのち」 授業者　江﨑　一紀 講師　井出　一雄先生（都小国研　顧問） ２月　１９日（水）　第６回研究授業　第５学年「六年生におくる字をすいせんしよう」 授業者　林　俊介 講師　井出　一雄先生（都小国研　顧問） ２月　２６日（水）　研究全体会　今年度を振り返って、新年度計画 ※上記以外に、随時、研究推進委員会・研究分科会を開き、研究を進めてきた。		

≪令和元年度　栗原北小学校　校内研究のまとめ≫

Ⅲ－１　児童意識調査（全学年）の変容

１　実施概要

本年度の研究では、昨年度に引き続き、研究主題、仮説、めざす児童像に鑑み、すべての学年で児童意識調査を６月と１月の２回実施した。そして、調査７項目の変容を学年ごとに分析した。（詳細は≪実践記録≫参照）

２　考察

その中でほぼ全ての学年に共通する、項目・内容についてここで述べる。

① 国語の学習は好きですか。

どの学年も、「とてもそう思う」と答えた児童が増加している結果となった。特に大きく変化していた学年は３つあり、１年生は２０％以上、２・４年生以上は１０％以上も増加した。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童は、１月の段階では１年生の６％から、６年生の３５％まで、学年が上がるにつれて増えることが分かった。学年と児童の実態に沿った学習展開を考え、児童が主体的に学習できるように工夫していくことが重要である。

② 国語の学習で、自分の考えを書いたり、発表したりすることは好きですか。

どの学年も、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童がわずかに減少していた。１年生の変化は大きく、１０％減少していたが、他の学年は１％～４％の間で減少していた。もともと苦手と感じる児童の多い項目だったので、少しでも苦手意識が少なくなったとすると、研究の成果であると考えられる。今後も引き続き、児童が自分の考えを表現しやすい学習の場面設定をしっかりと行っていく必要がある。

③ 国語の学習で、自分の考えを分かりやすくまとめて書くことはできますか。

学年によって結果が半々に分かれた。ほとんどの児童は自分の考えを書くことができるが、「分かりやすく書く」となると、まだまだ苦手意識をもっている児童が低学年では２０％弱、中・高学年では３０％前後いることが分かった。この苦手意識を軽減するために、どのように書けば分かりやすくなるのか、例を示したり、児童の実態に沿った発問を投げかけたりして、書くという活動に、抵抗なく取り組めるようにしていきたい。

④ 国語の学習で、自分の考えをとなりの人やグループに伝えることは好きですか。

高学年では、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた児童が１０％以上減少した。しかし低・中学年では、１０％以上増加していた。学年の特性や学習内容の難易度が異なるので、今後も児童理解を深め、発表の形態や方法を工夫していくことが重要である。また、児童の聞く態度を養い、友達に伝えたいと思えるような雰囲気作りをする必要があると考える。

⑤ 国語の学習で、自分の考えをとなりの人やグループに分かりやすく伝えることはできますか。

「できる」と答えた児童は６月と比べて、ほとんど変化がなかった。どの学年も１％増加しているか減少している結果となった。「できない」と答えた児童は、学年によってばらつきのある結果となった。減少したのは１年と４年だけだった。

⑥ 国語の学習で、自分の考えをクラスのみんなに発表することは好きですか。

⑤の質問とはやや異なる結果となり、１年生以外の全ての学年で、「とてもそう思う」と答えた児童が減少していた。３～７％の変化ではあるが、全体で発表をすることに抵抗をもつ児童が増えていることが分かる。また、「そう思わない」と答えた児童は大幅な変化が見られた。１年生と３年生は減少傾向となったが、その他の学年では増加していることが分かった。６年生は１月の段階で２１％の児童が全体での発表に苦手意識をもっていることが分かった。

⑦ 国語の学習で、自分の考えをクラスのみんなにわかりやすく発表することはできますか。

⑥と比例して、どの学年も「できる」と答えた児童が減少した。発表すること自体に苦手意識のある児童が、⑦の質問でも「まったくできない」と回答していることが推測できる。どのような手立てを取れば児童が自信をもって取り組めるようになるのか、考えていく必要がある。⑤～⑦の結果と合わせて、今後の国語科の研究の課題となることが予想される。

Ⅲ－２　今年度の研究の成果と課題

【研究仮説】
　基礎基本を確実に身に付け、主体的、対話的な活動を通して以下のような手だてを取れば、その手だてを通して多様な表現力が身に付き、一人一人の豊かな人間力が育成されていくであろう。

研究主題にせまるための手だて

① 主体的な学び合い

- 個の考えをもたせる工夫
- ノート指導やワークシートの工夫
- 学んだことが生きる学習計画の工夫
- 学習の見通しをもたせる工夫
- 魅力的な学習計画

② 対話的な学び合い

- 話し合いの工夫
- 表現力を高める指導の工夫
- 自分と友達の考えを比べるための指導の工夫

☆今年度は各学年において、上記の内容を基に手だてを講じて取り組んだ。

今年度の成果と課題

（１）１年間の本校の研究を通して

成果	○各学年の実態に応じた学習計画を作成することができた。 ○授業を通して学年の実態を把握でき、研究主題に向けて学校全体で取り組むことができた。 ○学習計画を工夫することで、主体的な学び合いができた。 ○新学習指導要領の施行に向け、国語学習の在り方の共通理解を図ることができた。 ○ペアやトリオなど、話し合いの工夫ができた。
課題	●領域（話す・聞くこと、書くこと、読むこと）や読みの教材（説明文や物語文）が違うことで、指導法や手立ての系統性の構築が難しいことで指導に生かしにくい。 ●話し合いのより一層の深め方（観点、目的、方法）や、表現力を高める手立ての工夫など効果的な手段や学校としてどう統一していけばいいのかが分からない。

（２）観点別の成果と課題（低・中・高学年部会）

	○成果	●課題
関心・意欲	○モデリングの提示によって、児童の興味や関心を引き出すことができた（低） ○着目するところをカードや掲示物で示すことで、学習の見通しをもつことができた。（低） ○場面読みから横断的な読みにすることで、子供たちの学習意欲が高まった。（中） ○子供主体の学習過程を設定できた。読みのめあてを設定したり、みんなで話し合いたいことを解決したり、学校行事（６年生を送る会）と関連させたりすることで、興味・関心を高めることができた。（高） ○場の設定や小道具など環境を設定することができた。（低・中・高）	●関心を高めるための教材準備に多大な時間がかかってしまう。（中） ●学習計画の工夫。導入で興味・関心を高め、ゴールを設定して見通しをもたせる必要がある。そのための教材研究が必要。（高）

話す・聞く	○モデリングを示すことで、安心して話すことができた。（低） ○交流では友達の考えを知り、自分の考えを広げることができた。（中） ○各領域と関連させて表現力を高めることができた。読んで書いて表現したり、読んで話して表現したりした。（高）	●ペア学習から３人、４人組と話し合い活動の人数を増やしていくこと。（低） ●自分の考えをもつ際に、本文に基づいて根拠を説明できるようにしていく（中） ●交流をする際に、話し合いの形式や話型の提示など、より良い交流の工夫をしていく。（中） ●発表するときのつまずきの見取り（高）
読む	○ワークシートにサイドラインを引くことで、自分の考えをもつことができた。（低） ○発達段階から段落毎の要約を行ったことにより、文章からキーワードを読み取ることができた。（中） ○場面読みから横断的な読みにすることで、物語全体を通して登場人物の心情の変化を読むことができた。（中） ○教材を読む必要性をもたせて、読みの力を活用することができた。（高）	●教師が教材を深く読み込み、その場で誤 読などの対応ができる指導力が必要となる。（中）
書く	○ノートにまとめる際にキーワードを押さえることで事柄を整理できた。（中） ○視点を明確にすることで、書くことへの苦手意識をなくした。（低・高）	●キーワードを基に文章を構成する力がまだ不十分（中） ●書く表現力のつまずきの理解の仕方（高）
知識・理解	○モデリングの提示によって、自分とモデルと対比して考え、話すことの基礎・基本を身に付けることができた。（低） ○教材を読む必要性を与えることで、言葉の意味を理解することにつながった。（中） ○個の考えをもたせるための手立てを工夫できた。（まとめる視点、見通しをもたせる、話し合いの設定、考えの共有、考えの再構成など）（高）	●語彙力を伸ばす必要がある。（中） ●個に応じた手立ての工夫である。学力差に応じたワークシートを作成したり、視点を精選したりしたが、教材の特性を生かしながらも能力差に応じた手立てを工夫することがより一層必要である。（中・高） ●表現力の育成にあたってのつまずきの理解（高）